

おきみゅー通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.11 春号

リアル
こんな絵画見たことない。



島村信之《籐寝椅子》2007年

＼愛称がおきみゅーになりました！



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

新収蔵品展

－平成30年度 収蔵資料－

4/30—6/23
2019

博物館企画展示室
一般 500(420)円、高校・大学生 300(250)円、小・中学生 無料
※()は20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は無料



新島義龍植物写真資料 (にいじまよしたつ しょくぶつしゃしんしりょう)

平成30年度に新たに当館へ収蔵品として登録された資料を4月30日から6月23日の49日間にかけて公開します。新収蔵資料をより深く理解していただくために、当館における基本的な収蔵資料の構成について説明します。

収蔵資料は主に寄贈資料と購入資料、収集資料の3つに分けることができます。寄贈資料は新たに登録された資料の大部分を占めており、当館において個人所蔵資料の公開、活用、そして研究・分析を希望する一般の方々から寄贈を受けたものになります。今回の新収蔵品展で公開される名渡山愛順工房製作『縮緬黄色地鳳凰牡丹扇面模様着物』や『新島義龍植物写真資料』『大田昌秀氏直筆原稿資料』などがこれに当たります。ちなみに旧博物館の開館(昭和21年)から平成29年度までの全収蔵資料のうち約8割を寄贈資料が占めています。

一方で購入資料というのは、学術上重要な資料でその散逸防止や保護の必要があつて国内外の個人や団体などから購入した資料と、企画展や特別展関連で新たに製作した模型や標本、体験キットなどの資料から構成されます。購入資料は主に美術品が対象になっており、かなり高価な資料も含まれていることから美術品購入基金を利用して購入しています。今回公開される資料では『三線 真壁型 銘西平(県

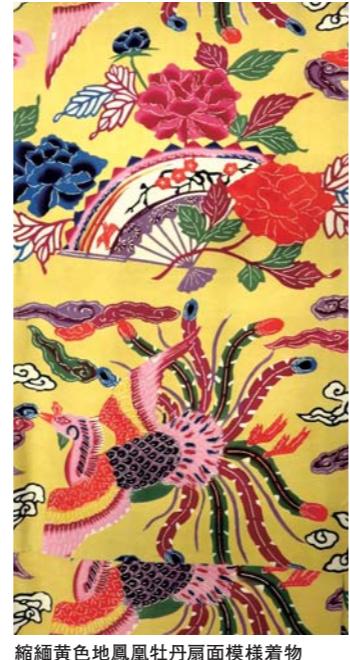
博物館の収蔵資料とは

そして最後に、収集資料があります。これは毎年実施している総合調査や特別展、企画展に関連した調査で当館学芸員が収集した資料になります。学芸員が何に注目しているのかを、収集された資料から見て取れる内容となっています。また、その研究成果は『沖縄県立博物館・美術館博物館紀要』ならびに『総合調査報告書』、『特別展・企画展図録』などで見ることができます。今回、公開される資料の中では『伊是名島・伊平屋島採集の岩石資料』がこれに当たります。

このように当館の収蔵資料は3つに大別できますが、これ以外には沖縄県が当館以外で収蔵している資料で、当館へ所蔵が移った資料を移管資料として収蔵資料に登録することもあります。今回の新収蔵品展には移管資料は無いためここでは詳しい内容については省略させていただきます。

今回の新収蔵品展は、以上に挙げた資料以外にも様々な新収蔵資料を公開しますので、是非ご観覧ください。

(学芸員 山本正昭)



縮緬黄色地鳳凰牡丹扇面模様着物
(ちりんきいろじほうとうばんせんめんもようきもの)



三線 真壁型 銘西平(県指定有形文化財)
(さんしん まかひがた めいにしひら)

驚異の写実 －ホキ美術館名品展－

4/6—5/20
2019

美術館企画ギャラリー1・2
一般 1,300(1,000)円、高校・大学生 1,000(800)円、小・中学生 700(500)円
当日一般ペア割 2,400円、グループ割(4人以上) 当日料金から100円引き
※()は前売料金 ※未就学児無料 ※20人以上の団体は当日料金から2割引
※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は当日料金の半額



藤田貴也《EIKO》2014年

写実絵画の魅力とは――

ホキ美術館は、2010年に千葉市にオープンした私設の写実絵画専門の美術館です。当時はニュースにもなったので、ご存知の方も多いかもしれません。このたび同館所蔵の64点が沖縄県立博物館・美術館で展示されることになりました。

「写実絵画」とは何でしょうか。「写実」とは「事物の実際をそのまま写し取ること」ですから、対象を見たままに描いた絵画なのですが、「見たまま」にはさまざまなレベルがあり、具象画を写実画と言ふこともあります。今回展示される絵画は、物の細部まで精密に描き込まれ、写真のようにリアルという点で際立っており、ここ20年くらいで盛り上がりを見せている「写実絵画」というジャンルに属するものになります。

写実の伝統は特に西洋で育まれました。ルネサンス期に確立した油絵具と遠近法、解剖学などの科学的知識、カメラオブスクーラなどの利用によって、世界を写し取る技法が発達したのは皆さんもよく知るところでしょう。ところが写真の登場により、近代の絵画は抽象化へと歩み始めます。第2次世界大戦後には抽象画は最も勢いを持ち、そのなかで写実的な表現は時代遅れと見なされるようになりました。そして表現が多様化した現代、1つの表現形式として、西洋の写実の精神を継承する絵画が注目されてきています。

では、写実絵画の魅力は何でしょうか。まず1つには、写真のように、あるいはそれ以

上にリアルでありながら、写真とは「違う」ところに魅力があります。写真が単眼で対象を捉え、1点にしか焦点が合わないのに対し、目は常に動いているため、絵画では画面のすべてにピントが合って描かれます。また両眼の視差によって対象を立体的に捉えるため、迫真性が生まれます。人物や風景がまるでそこに実在するかのような不思議な感覚はこのようにして生まれるのです。

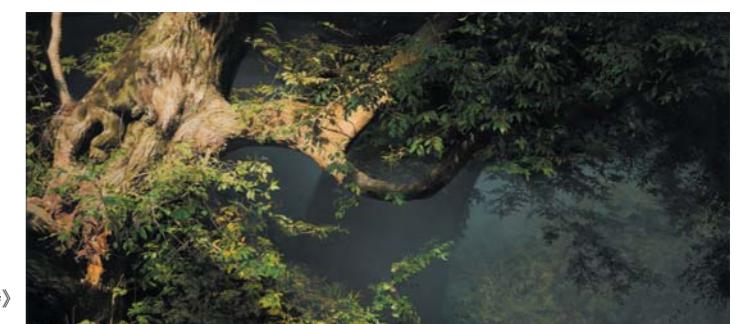
息を呑むような細密描写にも注目です。複雑に重なり絡み合った植物や細かな髪の毛の表現、そしてきらめく水面の描写は、まるで写真のような正確さですが、近づくと筆あとが見え、人の手によるものであることがわかります。画家たちの卓抜した観察眼と技術力の高さを感じることができます。

以上からもわかるように、写実絵画は制作に時間がかかります。画家は何ヶ月もかけて1つの対象に向き合うのです。そのため1つの風景画のなかに四季の移り変わりが描かれることがあるそうです。つまり、写実

絵画には「時間」も描き込まれるのです。その時間のなかで画家は、モデルの人となりや対象の気配、匂い、音を感じ取り、感性でもって描いていきます。よって現実をデータとして写しとる写真とは違い、対象の存在感が描き出されるのです。

写実絵画の第一人者である野田弘志氏は写実絵画のことを次のように語っています。「物が存在するということのすべてを二次元の世界に描ききろうという、一種無謀とも見える絵画創造のあり方です。物がそこに在るということを見る通りに、感じる通りに、触れる通りに、聞こえる通りに、匂う通りに、味のする通りに描ききろうとする試みです。」

写真以上にアリティがあるように感じる理由はそこにあるのかもしれません。本展において写実絵画の魅力にぜひ触れていただきたいと思います。(学芸員 国吉貴奈)



五味文彦
《樹影が刻まれる時》
2015年

時代を越える名品

-美術工芸部門展示室- 4/16(火)～7/28(日)

博物館常設展示室

一般 530(420)円、高校・大学生 260(210)円、

県外小・中学生 150(120)円 ※2019年4月1日より観覧料金の一部を改定しました

※()は20名以上の団体料金 ※未就学児無料 ※県内小中学生無料

※70歳以上の方は無料(身分証の提示が必要です) ※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は無料

美術工芸部門展示室の今回のテーマは「時代を越える名品」です。絵画、染織、陶器などそれぞれの分野の学芸員が選んだ「名品」を展示します。例えば漆器では、博物館収蔵の漆器およそ700件の中から選んだ名品として「朱漆山水楼閣人物箔絵丸形東道盆」を展示します。こちらは沖縄県指定有形文化財にも指定されており、およそ300年の時を越えて今に伝えられる作品です。では、なぜこの作品が「時代を越える名品」なのでしょうか。

まず注目するのは卓越した技術です。箔絵で模様が描かれていますが、側面には牡丹唐草、蓋表にはまるで1枚の山水画のように手前の楼閣から遠くの山まで表現されています。次に注目すべきは、盆の中に収められている9枚の小皿です。東道盆は漆製の足付き盆と蓋、盆に並べる小皿が一組になっており、小皿は漆器や磁器で作られることが多い中で、この作品の小皿は石で作られています。堅い石を削って皿にするだけでも難しいはずですが、9枚それ

「朱漆山水楼閣人物箔絵丸形東道盆」19世紀
(しゅうしるさんすいりょうかくじんぶつはくまるとんがほん)



美術館コレクション展

伊志嶺 隆と平敷 兼七

開催中 — 6/23(日)

2019 美術館コレクションギャラリー1・2、ホワイエ

一般 400(320)円、高校・大学生 210(170)円

小・中学生 100(80)円 ※2019年4月1日より観覧料金の一部を改定しました

※()は20名以上の団体料金 ※未就学児無料 ※県内小中学生無料

※70歳以上の方は無料(身分証の提示が必要です) ※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は無料

右上の写真は、伊志嶺隆〈光と陰の島〉シリーズの作品です。このシリーズ以降、伊志嶺は正方形の写真を撮るスタイルを確立しました。海に向かってうなだれる少年からは暗い印象を受けますが、画面からは細やかにとらえられた光を感じることができます。明るさと暗さが同居したような不思議な写真で、ひとたび観てしまうとなかなか忘れられないほど、印象に残る写真といえます。伊志嶺は1993年、交通事故によって急逝しますが、その後有志によって遺作展が開催されました。さらに『伊志嶺隆遺作集』が刊行されますが、この写真はその表紙を飾っています。

『伊志嶺隆遺作集』には平敷兼七の名前があり、平敷が遺作集の編集に携わっていました。ふたりの交流に関する確かな証言はまだ得られていないのですが、この遺作集はふたりをつなぐ数少ない作品です。他にも平敷は手製の写真集を数多く手がけており、右下の作品は『沖縄をすくった女性達』という写真集に収録されています。料亭で働く夜の女性や、その周囲に現れる人間模様が撮影されており、平敷は「彼女達の境遇は彼女等がよく知っている」と語ります。平敷は己を出さ



伊志嶺 隆《光と陰の島 鳩間島》1986年



平敷 兼七《好きな男が女の所から出てくるのを朝までまっている女性 南大東 1970》1970年

ず、被写体に向き合い、様々なハンディキャップを負ってなお生きる沖縄の人々の日常を撮り続けました。(学芸員 亀海史明)

(学芸員 篠原あかね)

博物館を支えるボランティア

博物館支援会 沖縄県立博物館友の会の仲間孝藏会長と理事の桑江千鶴子さんに友の会の活動についてお話を聞きました。

沖縄県立博物館友の会とは?

仲間: 友の会は1980年に沖縄県立博物館(首里旧館)の支援団体として結成されました。今年で39年目になります。

博物館が行う様々な事業の支援活動が主な目的であり、加えて博物館が大好きで沖縄の自然や歴史・文化に興味がある方が知識を深め楽しく交流できる場として友の会が設立されました。以来、会員限定の見学会や研修会、一般者向けの講演会など幅広い分野の企画を開催しています。

また、会員特典として博物館常設展が会員証提示で観覧無料になります。沖縄の至宝や歴史的資料をいつでも見ることができますので博物館をより身近に感じて頂けると思います。これからも博物館の事業を支援し、会員の知的好奇心に良い刺激を与えられる友の会であり続けたいと考えています。

会員について教えて下さい

仲間: 現在の会員数は約400名です。60代以上の方が大半を占めますが、最近は若い世代や沖縄に移住した方、県外在住者の入会も増えています。県外会員の方は会報誌を通じて沖縄を身近に感じて頂けているようでとても嬉しく思います。ちなみに会員の最高年齢の方は93才で、旧館時代から長く会員を続けられている方が多いの



歴史探訪「首里の石碑めぐり～首里城とその周辺～」(2018.11.12)

も友の会の特徴です。勉強熱心で楽しみながら知識を深める素敵なお方がとても多いですね。

活動を通して感じたことは?

仲間: 友の会独自の趣向を凝らした企画が多く、見学会や研修で詳しい解説や最新の研究、情報を得ることで毎回新たな発見があることに気付きます。さらに学芸員と直接お話しする機会があるのも友の会に入会して良かったことの1つです。

また会員の中には専門家の域まで達した方もいて、その方が講師になって研修会を開くこともあります。沖縄の歴史や文化の奥深さに感動し学ぶ意欲が尽きることはあります。

今までの思い出は?

仲間: 旧館で開催された古代メキシコ秘宝展やインカ文明展に何度も通ったことを鮮明に覚えています。遠い国の秘宝を沖縄で見た感動は今も忘れません。

その後、私が役員になった時期に旧館から新館への引っ越しがありました。友の会がこれまで同様存続できるのか先の見えない不安な時に役員一丸となって打合せを何度も行い困難を乗り越えたことは今では良い思い出になっています。

桑江: 旧館時代も友の会は活発に活動していました。特に旧館では水や火気の規制が現在に比べて厳しかったので中庭で黒糖作りや陶器教室を行うことが出来ました。特に黒糖作りは年間を通して開催し、親子でサトウキビの苗を



桑江千鶴子さん [左] 仲間孝藏さん [右]

植えた後、収穫から絞り汁を煮詰めて黒糖が出来るまでの全ての行程を体験して学ぶ企画はとても楽しかったです。

入会して良かったこと、学べたことは?

桑江: 私は会員歴20数年。これまで学びながら博物館をサポートできて良かったと思っています。また友の会の活動を通して多くの方と関わりを持ち、その中で幅広い知識を得ることができました。そうした繋がりで得られた知識をさらに博物館の支援に活かしていきたいです。



旧館時代 陶芸教室の様子 (1983.8.14)

仲間: 私も旧館時代に入会しました。活動を通して得られた素晴らしい知識や経験は私の人生を豊かにしてくれています。自らを高められる恵まれた環境こそ入会して良かったことです。博物館の友の会では多くの方に出会えます。楽しく交流しながら知識を深める経験は、1冊の本を読む以上に得るものが多いと思います。

最後に、読者へ一言

仲間: 沖縄の知識・歴史の宝庫、先達の知恵が凝縮されている沖縄県立博物館友の会と一緒に楽しく学びましょう! 新しい会員限定の特典もあります。ぜひご入会下さい。皆様のご入会をお待ちしております。入会申込み方法は、本誌裏面をご覧ください。



OkiMuのミッション「教育普及」

沖縄県立博物館として誕生して今年で72年目を迎える当館では、学芸員の先輩たちが培った活動が現在まで脈々と受け継がれ、多くのファンが育っています。実は、私自身もその一人で、首里にあった頃の博物館に放課後よく出入りしていたファンの一人でした。

今回は、そんな私がOkiMuの教育普及活動について少しお話します。

教育普及とは？

博物館の活動には、4つの柱がありますが、その一つが「普及活動」です。展示資料の魅力を多くの皆さんに発信し、理解を深めていただくことを目的とします。博物館が首里にあった頃、「身近な郷土の自然や歴史、伝統文化などについて多くの方に慣れ親しんでもらう」ために、野焼きで土器を作ったり、黒糖や豆腐作りなどをやってきましたが、現在の場所に移動してからは、IPM*や消防法などにより昔に比べてできる体験が限られてしまいました。しかし、状況が変わっても先輩たちの意志を引き継ぎ、この条件の中でできることを日々試行錯誤しています。そこで大事にしているのがコミュニケーションです。

*IPMとは、文化財害虫を寄せ付けないために生花や飲食物を持ち込まない管理方法のこと

モノ(展示資料)とのコミュニケーション

モノが語ることはありますが、じっくりと観察し耳を傾けるとそこから思いつくことがあります。例えば、2月に実施した旧正月イベントで干支の工作教室を考えていた時、展示室でリュウキュウイノシシの剥製をみていると、もっと日の目を浴び

たそうに見えてきて、そこで思いついたのがOkiMu干支スタンプでした。もしかしたら展示室内にあるモノをモチーフにすると面白いかも！さらには、この展示を多くの方に見てもらえるかもしれない！

と考え、すべての干支の素材探しをしましたが、ここで壁にあたります。沖縄に元々いない動物が…しかし、学芸員に相談すると、植物の名前に注目すると、干支に関する漢字が入っていることがわかり、どうにか十二支集めることができました。



人とのコミュニケーション

そうなんです！普及活動においては人との対話も大切です。スタッフやボランティアとエンタクするうちに企画ができることもあります。特に、スタッフ同士では妄想に走ってしまうこともあるので

すが、時にはいい方向に向かうこともあります。そこから誕生したのが、絵本づくりでした。映画のように真夜中の博物館で展示資料が動いていたら…をテーマに子どもたちが想像してお話を



考えたら面白そう！という話になり、実施しましたが、私達では思いつかない自由な発想の絵本が生まれました。また、展示室での子どもたちの目線にも気づくことができ大変勉強になりました。

展示室でのつぶやきも重要

私達がどんなに面白い！と思っていてお客様にとっては、そうでもないことがあります。そんなときは、直接展示室に行きお客様になりますて、実際にどこに注目しているのか偵察しています。意外とお客様は、私達が気づいていない部分に注目していることがわかり、ワークシートや工作教室のヒントにつながることもあります。とはいえ、学芸員が伝えたい魅力も伝えなくてはなりません。

来館者自身の感覚で自由に見てもらうと同時に学芸員の思いも伝える。このバランスがとてもむずかしいと感じますが、この試行錯誤する過程を楽しんで活動しています。

これからも、多くのOkiMuファンを増やせるよう先輩たちの意志を引き継ぎ活動に励みたいと思います。次回は、博物館や美術館のマナーについてお話しします。（教育普及担当 大瀬萌子）



ふれあい体験室のイチオシ！キット

体験キット No.

18

島々のコトバ

那覇に住む女の子が、おじやおばーの家に遊びに行くストーリーの体験キット。絵本に載っている番号に電話をかけ、おじやおばーの道案内にしたがってゴールを目指します。

魅力その① いろんな地域の言葉が聞ける！
絵本は首里本、宮古本、石垣本、奄美本の全4冊。おじやおばーがそれぞれの地域の島ことで案内し、ストーリーを進めます。シーサー やキジムナー、幽霊の声も聞けるかも！?

魅力その② 隠しコマンドがいっぱい！
道案内された場所以外のところにも電話ができる他、隠しコマンドとして本に載っていない番号にも繋がります。警察、消防の番号にかけてみると…?

沖縄の有名人も声優として出演！
体験してみよう！

毎月楽しいイベント
が盛りだくさん
だみゅ～

4・5・6月のイベント情報



博物館

文化講座

無料

[各回共通] 時間 14:00～16:00 場所 講堂 定員 200名

4/20 土 「カガクジカン 2018」関連催事

極低温の不思議な世界 講師 與儀 譲氏

5/18 土 洞窟の謎と魅力 講師 石原 与四郎氏

6/15 土 人に生まれて良かったと思える

虫のはなし(仮) 講師 宮竹 貴久氏

学芸員講座

無料

[各回共通] 時間 14:00～16:00 場所 博物館講座室 定員 80名

※6月8日のみ野外講座のため定員20名(事前申込制予定)
詳しくは、HPなどでお知らせします

4/13 土 沖縄先史・原史時代の墓と人骨 講師 山崎 真治(人類)

5/11 土 今、明かされる琉球王国の手わざ

～琉球王国文化遺産集積・再興事業について～ 講師 篠原 あかね(美術工芸)

6/8 土 フィールドツアー① 沖縄本島南部の自然観察に行こう！ 講師 菊川 章(生物) 宇佐美 賢(地学)

博物館常設展 展示解説会

[各回] 時間 14:00～15:00 場所 博物館 常設展示室

※当日有効の常設展観覧券が必要

4/11 土 生物 講師 菊川 章

5/9 土 人類 講師 澤浦 亮平

6/13 土 歴史 講師 久部良和子

バックヤードツアー

無料

[各回] 時間 14:00～15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名

※当日13:00より総合案内で受付

4/27 土 人類 講師 澤浦 亮平

5/25 土 美術工芸 講師 篠原 あかね

6/22 土 考古 講師 山本 正昭



美術館

「驚異の写実—ホキ美術館名品展」関連催事

4/6 土 ギャラリートーク

時間 13:00～14:00 場所 企画ギャラリー

講師 安田 茂美氏(元東京藝術大学客員教授)※当日有効の観覧券が必要

4/7 日 講演会

時間 14:00～16:00(開場13:30) 場所 博物館講座室

講師 保木 博子氏(ホキ美術館館長) 安田 茂美氏(元東京藝術大学客員教授)

定員 当日先着100名 ※展覧会の観覧券または半券が必要

4/20 土 「魂のリアリズム」上映会

画家・野田弘志氏の制作に迫ったドキュメンタリー

時間 14:00～16:00(開場13:30) 場所 美術館講座室

定員 当日先着50名 ※展覧会の観覧券または半券が必要

4/28 日 ピアノコンサート

時間 14:00～14:40 場所 エントランスホール

演奏 宮城 知子氏(ピアニスト)

5/5 日 写実絵画教室

時間 14:00～17:00 場所 県民アトリエ・こどもアトリエ

講師 安彦 文平氏(画家、宮城教育大学准教授)

※受付方法や参加対象、参加費については決まり次第
当館HPにてお知らせします

5/6 月 安彦文平講演会

時間 11:00～12:00(開場10:30) 場所 博物館講座室

講師 安彦 文平氏(画家、宮城教育大学准教授)

定員 当日先着100名 ※展覧会の観覧券または半券が必要

5/11 土 上映会・野田弘志講演会

「魂のリアリズム」の上映後、野田弘志氏によるトークを行います

時間 14:00～16:00(開場13:30) 場所 講堂

講師 野田 弘志氏(画家)

定員 当日先着200名(12:00より会場にて整理券を配布します)

※展覧会の観覧券または半券が必要

Art Museum
美術館

コレクション展「伊志嶺隆と平敷兼七」関連催事

4/27± ギャラリートーク

時間 14:00~15:30 (開場13:30) 場所 コレクションギャラリー

講師 未定 ※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要
※詳細は決まり次第HPにてお知らせします

6/8± シンポジウム

無料

時間 14:00~15:30 (開場13:30) 場所 講堂 講師 未定

※詳細は決まり次第HPにてお知らせします

[表紙作品解説] 島村信之《籐寝椅子》2007年 ホキ美術館蔵

柔らかい光に満ちた室内、女性が寝椅子で寛いでいる。光を含んだ衣服の質感や纖細な髪の表現に息をのむ。なかでも透き通るような肌の描写は白眉である。皮膚をとおして静脈まで透けて見える。島村は寒色系、暖色系と何層にも絵の具を塗り重ね、細やかな肌の質感や色を表現するという。女性のはかなげな美しさと、画面に漂う穏やかな空気が印象的な一枚である。



[開館時間] 9:00~18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)

※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館・
ただし5月20日(月)は開館)

メンテナンス休館 (6月28日~7月6日)
※休館日は変更することがあります

[ホームページ] <https://okimu.jp>



編集後記 ピカピカの一年生が至るところで誕生する4月は、まさに人生の節目の時期ですね。私も思いおこせば入学・就職と新しいスタートに向けて、希望に夢ふくらませ張りきっていた気がします。

私が個人的に楽しみにしている「驚異の写実 ホキ美術館名品展」。今号で紹介しておりますが纖細緻密な絵画の世界。印象派や現代アート、日本画とはまた違う、独特の絵画世界が味わえる展覧会になるのではないかと期待しています。読者の皆さまもぜひ写実絵画の世界に足を踏み入れてみて下さい。きっと目を奪われるはずです。(沖 春男)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.11 春号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2019年4月1日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団

美術館ミュージアムツアー

6/8±

時間 10:30~12:00 講師 富原圭子 (教育普及)

定員 12名 (事前申込制 / 10:25までに美術館ホワイエ集合)

※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要
※来館・お電話にて催事の1ヶ月前から受付開始

OKINAWAアートワークショップ

6/15±

時間 10:00~12:00

場所 県民アトリエ・こどもアトリエ 講師 未定

※詳細は決まり次第HPにてお知らせします

沖縄県立博物館
友の会 会員募集中!



沖縄県立博物館友の会では県内・県外研修、文化講演会のほか、いろいろな企画を実施しています。

さらに博物館常設展へ

の入場が無料、また企画展の割引チケットの販売など、博物館をお得にお楽しみいただけます。

会員の皆様に情報満載の会報誌をお送りしています。

沖縄の歴史や文化、自然について友の会で一緒に楽しく学びませんか? 友の会への入会をお待ちしております!



「長崎のキリスト教関連遺産とランタン祭り」(2018.2.27~3.1)

■問い合わせ・申込み先

沖縄県立博物館友の会事務局 ☎098-868-2722

年会費:一般 2,000円 家族会員 2,000円 (二人目から一人 1,000円)